

第 22 回 奄美を描く美術展

【本展】 会 期：令和 5 年 10 月 14 日（土）～ 11 月 5 日（日）
休館：10 月 18 日（水）、11 月 1 日（水）

観覧時間：9:00 ～ 18:00（最終日は 16:00 まで）
会 場：田中一村記念美術館 企画展示室 【観覧無料】

【巡回展】 会 期：令和 5 年 12 月 2 日（土）～ 12 月 10 日（日）
休館：12 月 4 日（月）

観覧時間：9:00 ～ 17:00（最終日は 16:00 まで）
会 場：瀬戸内町立図書館・郷土館 2 階 視聴覚室 【観覧無料】

大 賞



『雨やどり』 F15 号 油彩
水上 卓哉（愛知県）

〔評〕
この絵を見た瞬間から惹きつけられた。インパクトがあり、観る者に向けてエネルギーを発散させてくる。どっしりと存在感のあるカエルとそれを取り巻く空間の色が美しく、濁りがない。描き方には勢いがあって非常に良い。ドリップングが画面全体に大きな流れをつくり、雨にも見えて独特の空気感を醸成している。細かく描いていくことも絵のひとつの方法だが、この作品は大胆な筆さばきの中に細部が宿っている。大賞にふさわしい作品である。

田中一村記念美術館賞



『錦秋』 S15号 油彩
大塚 尚子（秋田県）

〔評〕
画面に散りばめられたフォルムや色からリズムが感じられる。そしてインパクトがある。正方形の画面は絵づくりが非常に難しいが、直線と曲線、赤や黄色や緑などの色、それらを効果的に使い成功している。具象画の中の抽象性は大事だ。これは何だろう、と絵に呼びかけたくするような感覚を鑑賞者に呼び起こさせる。そのような力をもつ作品である。

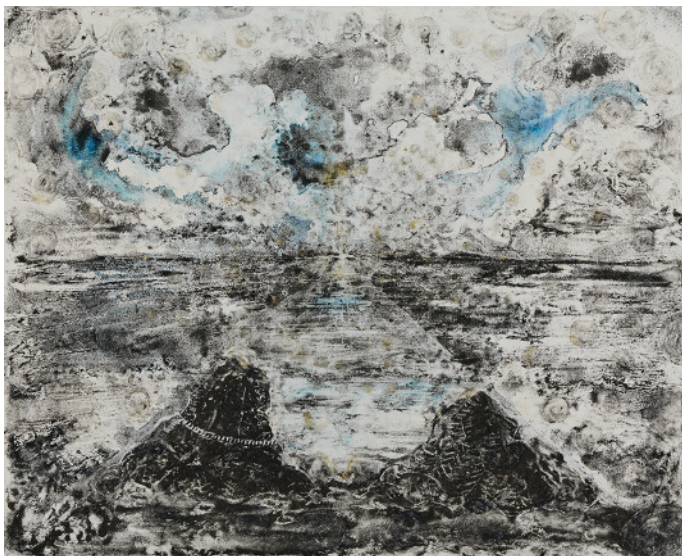
優秀賞



『追憶・嘉鉄 73』 P12号 オイルパステル
嶋田 敏夫（京都府）

〔評〕
画面づくりの斬新さが素晴らしい。奄美固有の動植物が画面に散りばめられていて、それだけでも楽しさを感じるが、よく見るとそれらが画面中央部に奄美大島を形作っている。このような遊び心ある作品はまさに「見るための絵」だ。眺めていて、なんだか嬉しい気持ちになれる。今後の展開が楽しみな作家だ。

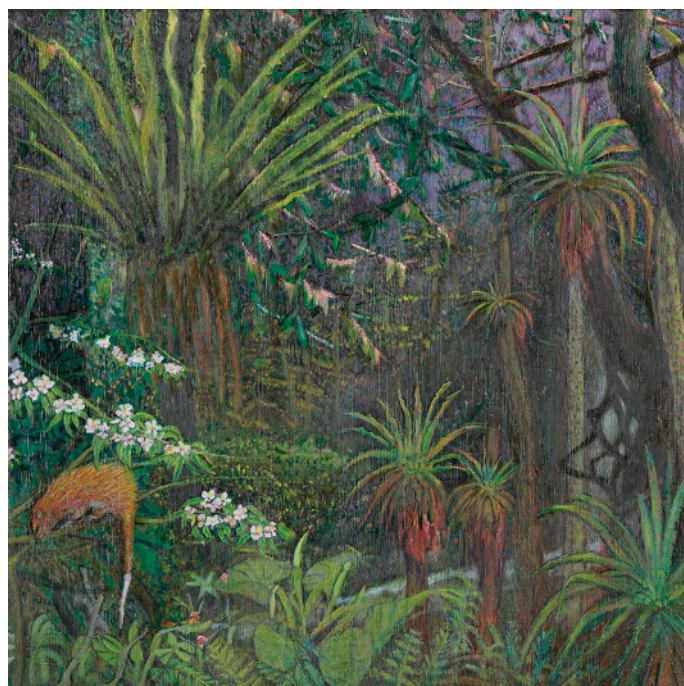
優秀賞



『ネリヤカナヤより招く』 F15号 工芸
植村 恭子（鹿児島市）

〔評〕

モノクロの画面だが、まわりの作品に負けない強さ、大きさがある。画面全体のザラッとした質感やフワッと抜けた部分、そして差し色の青。技術力が高く、観ていて心地よい。奄美で語り継がれている、海の向こうの理想郷「ネリヤカナヤ」。今まさに神がやってくる、私たちはその瞬間に立ち会っているかのようだ。



『湯湾の森』 S15号 油彩
横山 陽一（神奈川県）

〔評〕

上へ上へとリズムよく伸びていこうとする木々や美しく咲く花々。細かく描かれた葉や、尾の先が白いケナガネズミ。自然をよく見てよく知っている作者だからこそ描けるのであろう。緑の色を使うのはとても難しいが、この作品では色の関係性が破綻することなく調和がある。とにかく、観ていて本当に楽しい作品だ。



『魚大好き』 63×47cm 水彩
源五郎 光（龍郷町）

〔評〕

一般的な観念に捉われない、これほどまでに大胆かつ独創的な表現こそ、絵の醍醐味だ。作者は、自分の内面から湧き上がってくるフォルムや色を用いて、自由に楽しみながら描いたに違いない。観賞する側も楽しくさせてくれる。このシリーズをこれからも続けてほしい。



『泥染めのバケツ』 F15号 水彩
高山 法雄（熊本県）

〔評〕

これほどの物質感、量感を水彩で描くことができるのは相当な技量だ。表現を突き詰めていく時、やはり「描き切る力」が必要となる。この力がないとどんなに素晴らしい発想をもっていたとしてもそれを形にすることはできない。この絵には作者の「描き切る力」が滲み出ている。

佳作〈奄美の海賞〉



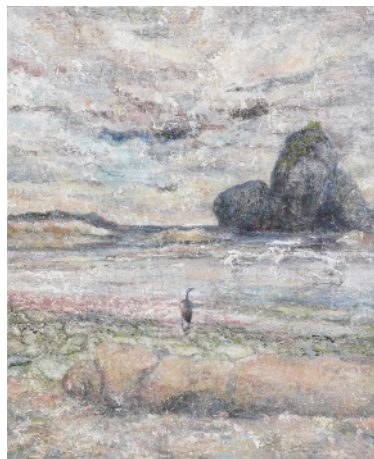
『朝、街に見えた』F15号 油彩

中嶋 友美 (奄美市名瀬)

〔評〕

泳いでいる人間の姿が、自由を象徴しているかのようだ。まわりの魚たちも印象的で、「明日に向かって私たちは共に生きていく」というメッセージ性を感じる。ダイナミックな構図も素晴らしい。

佳作〈奄美の空賞〉



『Into The Wild Sea
- 荒海へ -』F15号 日本画
KUMA-YOSHI (神奈川県)

〔評〕

画面いっぱいに広がる荒海が美しい作品だ。波打ち際に佇む一羽の鳥の姿は、混迷の現代を生きる私たちに重なる。人は一人では生きていけないが、時には一人思索する時間が必要だと、この絵は説いている。

佳作〈奄美の杜賞〉



『つむぐ想い』S15号 アクリル

渡瀬 俊輔 (奄美市名瀬)

〔評〕

実力があり、これからが楽しみな作家だ。表現したいものがわかっているし、作品の課題を自分で解決する力がある。丁寧に描写された人物やルリカケスには、観る者の心を捉えて離さない美しさが感じられる。

コンロンカ賞



『つむぐ』F8号 油彩
石山 英樹 (佐賀県)

〔評〕

様々な要素を組み合わせ独特な世界観をつくり出している。特に画面手前のサンゴ礁に紬のイメージを重ねることで奄美の海を象徴している。作者は画力のある人だ。次回はぜひもっと大きな作品にチャレンジしてほしい。

ソテツ賞



『島とハグロトンボと
ケナガネズミ』F15号 日本画
中尾 克依 (奈良県)

〔評〕

細部までしっかり描かれた、美しく気品のある作品だ。それに、絵の中に「風」が感じられる。良い絵には不思議と「風」が吹いていて、この作品がまさにそうだ。ずっと眺めていたいと思わせてくれる。

〔審査総評〕

レベルが非常に高く、多様な表現の作品が見られる実に面白い公募展だ。審査をしていて、選外にする作品が見当たらず苦労した。奄美独特の自然や文化、祖先から引き継いでいる伝統や思い。そういったこの土地でしか味わえないテーマからインスピレーションを得た作品の数々が放つエネルギーはすさまじく、審査するのはおこがましいと思えるほどの緊張感があつた。

表現するということに年齢は関係ない。時代を感じ、自分を見つめて研鑽を積んでほしい。出品者の皆さんと同じく、私も一絵描き、表現者だ。「一緒に頑張っていきましょう。」と心からエールを送りたい。(第22回奄美を描く美術展 審査員長 遠藤彰子)

入 選

作者名	作品名	サイズ 素材等	作者名	作品名	サイズ 素材等
田中 孝林	★ 暖かい日の下で	F15号 油彩	本間 泰伸	アマミタカチホヘビ	F15号 アクリル
竹松孝太郎	★ 静隠	39×57cm 芭蕉布・岩絵具	Tako★MASARU	杜を駆ける	M15号 アクリル
丸山良二郎	★ さがり花 [I]	S15号 水彩	今村 富枝	森へ漕ぎ出す	F15号 油彩
小島 尚子	★ 奄美の杜の楽しみ	F15号 油彩	田河美紀子	風景	F15号 油彩
すずきあけみ	★ I LOVE AMAMI R5. 土浜立神、台風前夜	S15号 アクリル	池田三樹子	海の彼方に	F10号 アクリル
坂本 千春	★ 南の島で見る夢	F15号 アクリル	瀧田 秀子	爽やかな風	F15号 アクリル
前田 正樹	★ 一夜花（サガリバナ）	F15号 日本画	盛 こころ	いつかの日の風景	F15号 油彩
福本 恒久	★ 夕陽が沈む	F15号 アクリル・クレヨン	林 美 緑	ガジュマル	F15号 油彩
喜納 祥子	★ 崎に向かう	F12号 油彩・アクリル	川越 陽詩	森のいるどり	F15号 油彩
上田 泰徳	★ T/O	F15号 日本画	渡 洋 子	散歩道	F15号 油彩
重村 敏光	★ 共生の森	S15号 日本画	前島美和子	底力	F10号 水彩
大川 厚子	★ 追想	F10号 水彩	山川 未桜	ネリヤカナヤの入口	62×50cm 水彩
福島 秀實	★ 世界自然遺産の主達	F15号 油彩	清 嵩 二	波打ち際のコンポジション	S15号 アクリル・油彩
海江田 宏	★ あまみのうみ	F15号 油彩	平井 泰輔	フェリーでお買い物	F15号 油彩
成 実	★ 一夜花～やこうばくさがり ばなきからすうりげっか びじん～	F15号 アクリル・墨	Kate O'Callaghan	水面下の宝	F15号 アクリル
中村 哲郎	★ 磯松の花咲く	F10号 日本画	清 勝 人	森の朝	F15号 油彩
野間 まり	奄美に行きたい！Ⅱ	F10号 油彩	住 静 子	聖霊の杜	F15号 油彩・アクリル
元井 晴美	加計呂麻通い 海上タクシー	F15号 アクリル	中田 久男	家路	47×46cm 油彩・テンペラ
小宮 英子	遥かなる奄美	F10号 水彩	栄 俊 久	島影	F15号 アクリル
佐藤由起子	ヤッコソウ	P8号 水彩	屋 幸 子	夕ぐれの楽しいひととき	F15号 水彩
新島 修二	奄美の自然農園（篠川）	F15号 油彩	藤崎 義久	Amami 懐景 アダンの小道	F8号 油彩
藤本 信司	ミステリーサークルを.	P15号 日本画	栄 ミ ホ	白昼・山羊と出会う	F10号 アクリル
玉城 邦子	島の夕暮れ	F15号 油彩	森山 逸子	森の中のアカショウビン	F15号 油彩
藤岡 邦枝	アダンの島	F12号 日本画	才田菜美可	わたしの友達	F15号 アクリル

※ ★印は「賞候補作品」

※ 「入賞作品 12 点」及び「賞候補作品 16 点」は、瀬戸内町で開催する巡回展に展示（会期：令和 5 年 12 月 2 日～12 月 10 日）

協
賛

